令和元年度第１回向日市総合教育会議会議録

日　時：令和２年３月２３日（月）
　　午前９時３０分から午前１０時３０分まで

場　所：向日市役所　大会議室

出席者：安田市長、永野教育長、白幡教育長職務代理者、松本教育委員、
　　流石教育委員、中野教育委員

事務局：小賀野教育部長、清水ふるさと創生推進部長、玉城教育部副部長兼文化資料館長、松石学校教育課長兼学校給食センター所長、伊藤企画広報課長、浅田教育総務課長、野田学校教育課担当課長、鹿島生涯学習課長、永露教育総務課主査

傍聴者：１名

安田市長：
　本日は、第１回総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。
　また、平素から市政全般、とりわけ教育行政につきまして格別の御協力をいただいておりますこと感謝いたしております。
　現在、新型コロナウイルス感染症が広がりを見せる中、様々な問題が生じており、本市の教育現場においても、小中学校の一斉臨時休業や来賓なしの卒業式など、今までに例のない対応をしてまいりました。
　また、国の方針に基本的に従って行っていることから、日々状況が変化していること、御容赦いただきたいと思います。
　今後におきましても、我々はしっかりと新型コロナウイルス感染予防対策に努めます。特に集団行動しております子ども達にクラスターが発生しないよう、十分に鑑みながら行動していきたいと思っております。
　また、第４向陽小学校の新校舎と留守家庭児童会を新築しているところです。木の香りのするいい感じの木造校舎になっております。また、先生方に見ていただいて御感想をお聞かせいただければと思っています。

本日は向日市の最重要計画であります「ふるさと向日市創生計画」が第２期を迎えるに当たって、それに合わせて教育大綱の改正につきまして、ご審議いただきたいと思っております。
どうかよろしくお願いします。

安田市長：
総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

浅田教育総務課長：
１名おられます。

安田市長：
傍聴を希望される方が１名おられるとのことです。
この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条第４、第６項及び「向日市総合教育会議運営要綱」第３条第１項の規定により、原則公開となっておりますことから、本日の会議は公開するということで御承認いただきたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

（全員意義なし）

安田市長：
それでは、改めまして、ただいまから令和元年度第１回教育総合会議を開催いたします。
それでは、議題に入らせていただきます。
議題１「教育大綱の策定について」事務局から説明をお願いします。

小賀野教育部長：
教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、総合教育会議において市長と教育委員会が協議し、策定するものであり、「ふるさと向日市創生計画」を踏まえ、教育に係る施策分野について定めるものであります。
現行の教育大綱の対象期間は平成３１年度までとなっており、このたび期間が満了いたしますので新たに策定するもので、「ふるさと向日市創生計画」の整合性を図るため、新大綱の対象期間は令和６年度までといたしたく考え

ております。

教育大綱の施策体系につきましては、現行の大綱を踏襲することとし、1「学校教育の充実」、２「生涯学習の推進」、３「生涯スポーツの振興」、４「人権教育の推進」、５「歴史あふれるまちづくりの推進」の順で、施策分野、施策基本方向、取り組みを記載したいと考えております。

まず、資料の１ページ、「施策分野１、学校教育の充実」のうち、施策１、「質の高い学力」をはぐくむ教育の推進では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善、ＩＣＴを効果的に活用した授業、小中の接続を重視した外国語教育の実施など、質の高い学力をはぐくむ教育を推進します。

「施策２、豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進」では、道徳教育、体験活動や読書活動の充実、ふるさと向日市への愛着と誇りをはぐくむ「ふるさと学習」の充実など、豊かな人間性や社会性の育成に努めます。

次に２ページの「施策３、たくましく健やかな身体をはぐくむ教育の推進」では、体力・運動能力の向上、食に関する指導の充実による食育の推進に取り組み、体力・スポーツ活動に親しむ能力と体力の向上、健やかな身体の育成を図ります。

「施策４、一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばす教育の推進」では、あらゆる人権問題の解決に向けて、自ら考え行動できる児童生徒の育成、障がいのある子どもの自立や社会参加を目指した特別支援教育の充実など、人権尊重の意識を高め、自分と他者との人権を大切にする児童生徒の育成に努めます。

次に３ページの「施策５、安心・安全な教育環境の充実」では、いじめや暴力行為の防止対策の充実、不登校の子どもへのきめ細やかな支援の充実など、児童生徒が安心して通え、楽しく過ごすことができる居場所としての学校づくりに取り組みます。

「施策６、学校の教育力の向上」では、教育の質の向上と子ども達の豊かな成長を目指す教職員の働き方改革の推進、保幼小、小中等の校種間連携・接続の充実など、児童生徒が明るくいきいきと学ぶ魅力ある学校づくりを目指します。

次に４ページの「施策分野２、生涯学習の推進」のうち、「施策１、生涯学習環境の充実」では、ふるさと向日市の歴史を活かした講座等多様な学習機会の提供、社会教育施設の特色を活かした学習機会と学習成果を活かした活動の場の充実に取り組み、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習の成果を活かす場や機会の充実に努めます。

「施策２、家庭・地域社会の教育力の向上」では、家庭教育に関する学習機

会の充実や地域学校協働活動の推進等、地域社会の教育力の向上に取り組み、学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子ども達をはぐくむ環境づくりを推進します。

次に５ページの「施策３、市民文化の振興」では、新たな市民会館を文化芸術振興の拠点として活用などに取り組み、市民の自主的な芸術や文化活動に対する支援を行うとともに、歴史を活かした文化芸術資源を掘り起こし、新たな魅力を創出します。

「施策分野３、生涯スポーツの振興の施策」の「施策１、スポーツの振興」では、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に取り組み、市民が健康で心豊かに暮らせるよう、スポーツに親しめる環境の充実に努めます。

次に６ページの「施策分野４、人権教育の推進の施策」の「施策１、多様性を認め合う社会の実現」では、人権という普遍的文化が構築できるよう、人権教育・啓発事業に取り組んでまいります。

最後に、「施策分野５、歴史あふれるまちづくりの推進」の「施策１、歴史・文化資源の整備と活用」では、史跡長岡宮跡や史跡乙訓古墳群の整備、旧上田家住宅の整備に取り組み、歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進し、未来に継承します。

以上、向日市教育大綱（案）について御説明をさせていただきました。

安田市長：

ただいま、事務局から「教育大綱の策定について」説明がありました。何か御質問や御意見等ございますでしょうか。

白幡委員：

１ページ目の施策分野１の取組で、「小中の接続を重視した外国語教育の実施」についてお伺いいたします。

私が学校訪問で見せていただいている限りにおいての話ですが、「小中の接続を重視した」という部分を強調するなら、かなり断絶したままであり、これを接続させるの大変だと思いました。小学校側の先生が教えることを始めたばかりなので、何をすればいいのかわからない状態ということが一つと、また、小学校では言葉を話すことを重視して教えているように見えます。中学校では理論化していくため文法を導入しようとしており、そこをうまくつながるように考えている趣旨はわかりますが、現実は難しいということ。小学校の先生が英会話を教えられる能力がないと言えば悪いですが、はっきり言えば能力がな

い。だから、ネイティブスピーカーの人たちをもっと上手に使う、もっと一緒にその人たちと教えるという形にしてもらいたいと思うのですが、うまく連携していないと感じています。個々の小中学校の外国語教育に関しては、かなり積極的なてこ入れが必要だと思います。お題目ではなくて、本当に小中学校の接続を重視したということを言うのであれば、単なる経験して楽しい思いをさせればいいというものではなくなった以上、もう少し小中学校の関係者の接続というか、研修とか研究が必要だと思います。

永野教育長：
　小学校の先生はもともと英語の免許は持っておられないのですが、現在、府教委のほうで教員配置の専科教員を配置する予定で進めていただいています。英語の免許を持った先生をこれから、今、向日市では２人入っていますが、あと１人入れていただければ全校専門の先生に回っていただけるということになります。あとは、その中学校側の先生が小学校の教育はどのように展開しているかというのをよく理解していただくこと。また、子どもたちのモチベーションが下がらないように、円滑に進めていくには、白幡委員がおっしゃったように、確かに研修やあるいはそういう会議の場、お互い授業を見る機会などを設けていかなければならないと思っております。

白幡委員：
　そういうことが積極的にいいかなと思います。語学だから繰り返しはいいのです。その繰り返しがらせん状に繰り返さないといけないということなのですね。それが連携ということだと思います。

安田市長
　もとより、今小学校教員は大学での教員養成課程も変わっています。

永野教育長：
　これからです。

白幡委員：
　これからですね。変わっていない。

安田市長：

小学校の外国語教育が始まっている中、先生が教育課程で勉強せずに出てくるということは非常に不本意ですね。大学独自でしていることもない。

白幡委員：
教育学部で独自でしているというのはないです。
始めているかもしれませんが、まだ卒業していない。

安田市長：
今までの小学校教諭と違い、英語教育の教育課程が必須ですが、履修していない。今、白幡委員がおっしゃったように、英語教育、目指す方向が違う中で小中学校の連携は難しい。小学校のときはスピーキングをして楽しかったけど、中学校で勉強したらいきなりという人もいるでしょう。

永野教育長：
今まで外国語活動は、音から入っています。それを今回、教科になることによって５、６年生からもう文字が入ってきます。イメージですが、今でいう中学校１年生の１学期ぐらいまでのことを小学校でするということになるので、かなり学習量が増えます。

白幡委員：
増えます。

安田市長：
興味がないと楽しくできない。難しいですね。

白幡委員：
一番大事なのは、なぜ外国語を勉強するのかを小学生に理解・納得させることだと思います。外国語を学ぶことと、その外国語ができるところまでいくのは、かなり距離があると思います。そこを皆さんが、何かすごくバラ色に語るわけです。実際そんなことはなく、子ども達も多分挫折はしないでしょうけど、嫌いになる。中学の先生は小学校で英語教育をすることにより、英語を嫌いになった中学生が出ては困ると言うが、そういうことではないと思います。小学校でしているから嫌いになるわけではない。初めから、語学をなぜ勉強するかということをきちんと押さえずに教えようとするからで、

嫌いな子は嫌いですよ。それはどうしようもない。言葉は個々人が自分の必要度に合わせて習得していくものなので、義務教育として教える以上は、何かの基準がないといけない。嫌いになる子がいるとしても、そこを子ども達にどう説明するのかと思います。

安田市長：
　ボーイスカウトの富士スカウト章を受賞した子が、楽しいことを言ってます。世界ジャンボリーという世界のボーイスカウトたちが集まってくるキャンプに初めて行ったとき、まったく話できなくて、楽しくなかったが、次の４年後に世界ジャンボリー行ったとき、自分なりに英語を勉強してコミュニケーションが取れて非常に良かったと。そういう体験があるとわかりやすいですね。

白幡委員：
　そうですね。

安田市長：
　例えば小学校のころから外国人と接してコミュニケーションをとって楽しくしたいが、話すことができないため楽しくない。では、自分でどうしたらいいのか考え、話せるようになることによって楽しくなるかもしれませんが、そういったきっかけや体験がなかなか少ないと思います。

白幡委員：
　義務化した以上、難しいですが、全員にモチベーションを持たせるということが必要であると思います。

安田市長：
　そうですね。その体験が必要だと思います。

永野教育長：
　留学体験した高校生の話を聞くと、自分が伝える力のなさを痛感して帰ってきて、目の色を変えて、これは勉強しないといけないと、非常に熱心になります。そういう体験が必要です。

安田市長：

そうですね。そういう体験をする必要があります。

白幡委員：
しかし、言葉を勉強するということは、例えばバイリンガルになることはバラ色の人生のように語りますが、海外へ親の関係で行って、突然日本語ともう一つ別の言語をやらなければならなくなったことで、何十％かは精神的ダメージ受けて、日本に帰ってこざるを得なくなる子がいるという現実は事実としてある。言葉を学ぶのはモチベーションが必要。でも、その子の精神構造までを危うくするすごく危険なこともしているということで、楽しいことばかりではない。七、八か国語操る専門家が、自分の言葉がなくなる、何語で考えたら自分の言葉として考えているのかわからなくなったと言ってました。それが言葉の一番怖さです。そこまでいく人はたくさんいませんが、現実海外で暮らす子ども達の中にそういう子がいることは事実で、難しいところです。

安田市長：
完全な姿が見えない話なので難しいですが、小中学校の接続を重視した外国語教育というのは非常に大切なことなので進めていかなければなりません。いろいろな状況に合わせてすることが必要だと思います。

流石委員：
施策の３の、「たくましく健やかな身体を育む教育の推進」の取組の中に「食に関する指導の充実による食育の推進」とありますが、中学に給食を保障できる形が整った。今、子ども達は食べるということがすごく大切な時代になっていると思います。この新型コロナウイルスで家で食事を取ることが中心となっているので、「食」を考えるいい勉強の機会になっていると思います。
「食を」考える中で学校での給食の大切さ、その中で子ども達に伝える食育という部分を、これから小学校や中学校で、どのように進めていくのか。食料を輸入に頼って日本は成り立っている。そのあたりを考えると、中学校給食ができたことから、この食に関する指導の充実や食育の推進をどのようにこれから進めるべきかと思います。

安田市長：
私たちが子供のころと比べて、食は非常に変わってきました。食に旬、季

節性、春になったら何を食べる、秋になったから何がなど、まったくわからないようになってきています。本来の基本的な食についての知識がなくなっています。我々が子供のとき、食育という言葉はなく、自然に学んできた。これからの子ども達に給食を利用して教育というのはしていかなければいけないのですが、食に対する子ども達の考え方自体が大分変わってきているので難しい。

永野教育長：
　中学校給食を始めて約１年ちょっとです。最初、とにかく安定的に給食を供給するのに１年、これから新年度を迎えますので、各学校で食育の計画がありますが、栄養教諭さん、栄養士さんに学校それぞれが関わって、もっと明確に取り組んでいくべきものと思っております。

安田市長：
　食育の基本的な考え方というのは、例えばどのような栄養素があり、それがどうなのか、この野菜はこのように育ってどう食べるのか、いつ頃に食べるのかというところからだと思います。

永野教育長：
　食材のところですね。

安田市長：
　　そう。今、どこに重きを置いて教えておられるのか。

永野教育長：
　食育というのは、食習慣のことや栄養バランスのこともあるので、とても幅広いものだと思います。それを計画して進めてもらおうとしています。

安田市長：
　食というのは、住んでいる地域によっても違います。中学校給食が始まって、食を通して人それぞれの生活様式を学ぶことも一つの食育かもしれないです。
　ただ、給食をきちんと提供することは大変です。

流石委員：
　そうですね。

安田市長：
　なかなか大変です。

流石委員：
　今親御さんはお昼、給食に頼っておられます。新型コロナウイルスの時、お仕事をされていて、学童保育を利用している親御さんは、昼食持参についても苦慮されることがあると思います。食べることの保障というのは命にかかわるので、「食」については、真剣に向き合うことが大切であると思います。

安田市長：
　新型コロナウイルスで言うと、本来ですと、ある程度免疫を持たせることは大切なので、１００％きれいにしなくてもいいのですが、新型コロナウイルスは飛沫感染があるので、ウイルスがいるところに触れて、その手で目を触るなど、粘膜からの感染防止は難しいですね。しかし、すべてそうなってしまうと世の中住みづらいところもあります。難しいと感じます。

流石委員：
　どこまで清潔・不潔を考えてするかというのは難しいです。

安田市長：
　私が一番難しいと思うのは、人によって基準が違うからです。完全にマニュアル化して、どこに触れ、この場合はどうしたらいいということができません。ここ触ったときはどうする、こうしたときはどうするということができない中で、ウイルス学的な意識を持たすということも大変難しいことだと思います。学校生活の中では、ここを触ったらだめです、ここに触ったらこうしなさい、こうした後は手を洗いなさい、ここはマスクをつけなさいということは言えると思いますが、日常生活全般については難しいところがあります。

流石委員：
　もう一ついいですか。３ページの「施策６　学校の教育力の向上」の「保護者や地域社会と連携・協働」とありますが、地域との話し合いの場というコミュニティ・スクールについては、すでに制度化されており、向日市はこれから

始めるようですが、難しいと思うのは、地域の人の考えです。地域との関係で学校がいろいろなかかわりを地域ともって、食育でも地域の生産者の方が学校で教えるなど、そういうことは非常に大切だと思うのですが、その辺はどうですか。

安田市長：
　全国的な話は難しいのですが、学校のボランティアとか見守りとかしてくれる方はたくさんいらっしゃいます。一方で、例えばＮＰＯ法人で何か地域づくりをしようという人がいるかというとそうではない。ですから、コミュニティ・スクールの在り方がどんな感じかまだ想像はできないのですが、一つの行動として子ども達を見守ってあげよう、一つの行動として学校に協力しようという人はたくさんいたとしても、難しいですね。それ以上に、いろいろな分野にかかわってやっていこうと思ってくださる方、これだけいらっしゃる。教育長がどのようなコミュニティ・スクールを考えておられるのか。

永野教育長：
　コミュニティ・スクールというのは、日本語で言うと学校運営協議会です。今、学校評議員さんを各学校長が推薦して私ども教育委員会から委嘱していますが、それは個別に校長先生が意見を聴くという位置づけで、校長先生が聴きたいことを聴かれます。ところが、学校運営協議会では、学校の教育方針を承認します。そこで１年取り組んで、それに対して意見を言います。そこまで権限はないと思うのですが、教育委員会を小さくしたような形になるので、そこまでしていただける地域、保護者の方がいらっしゃるかどうか。地元で聞いていると、学校に対する支援、見守りとかはいくらでもするという声は多くありますが、各学校・地域でどのような子ども達を一緒に育てるのかというようなことにまとまっていくかというと、そこはいろいろ地域の方と、どんどん話していかなければいけないと思います。そういう仕組みを国の方は進めていこうとされています。

流石委員：
　学校ごとにあるのではなく、地域の中の一つということですか。

永野教育長：
　それは学校ごととか、例えば中学校単位とか。ここに目新しい言葉で、「社会

に開かれた教育課程」というのが今度の学習指導要領で出てきているのですが、これはまさに学校だけで教育するのではなく、教育課程を地域の人とともにつくりあげていくというような発想だと思います。どういう教育目標をもって、どういう指導概要で、どれだけの時間数を授業として設けていくのかなどを地域の人とともにつくり上げていくんだということです。そのときに学校運営協議会、コミュニティ・スクールで対応するという。学校が学校教育だけで完結するのではなく、社会とつながっていくんだという発想だと思います。

安田市長：
　おそらく地域の連携というか、地域のつながりが希薄化している中で、国が示していることと思いますが、難しいですね。また、一部の声の大きい人にひかれてもいけません。そうならないために、今の状況を見ていると、そういった人がたくさんいらっしゃるかもしれませんが、みんなでいろいろな意見を出し合うようにならないといけないと思います。

松本委員：
　この大綱は、こういう施策をするということだと思いますが、３ページの「学校教育力の向上」について、学校がどうあるべきなのかは、施策６の基本方向にある、「児童生徒が明るく生き生きと学ぶ」というところが一番学校のあるべき姿なのかなと感じます。そのために、例えば学校の勉強がわからないと学校に行っても楽しくない。だから、学力はきちんとつけようとか、いじめがないとか、そういういろいろな面で学校に行きたいと思えるというのが全体の大きな枠として必要だと思うので、学校教育の充実という施策分野の大きな目的として、そういう一文があったほうが、大きなイメージの中でこういう施策１、施策２という具体的な施策の取組というのが出てくるのかなと思います。この形式というのは、どのように考えたらいいのですか。

安田市長：
　どうですか。いいと思いますが、もちろん、大前提の総論みたいな文章ということですよね。

松本委員：
　一文あれば、大きなイメージの中で具体的に施策の取組というのが出てく

ると思います。

安田市長：
　それは一つの考え方であり、間違ってないと思いますが、その一文が全部を引っ張る形になるので、なかなか難しい。

中野委員：
　もうすぐ市民会館ができるのですが、すごく素晴らしいことだと思います。今まで向日市のクラブ発表やイベントは、京都市や長岡京市の会館を利用するしかなかったのですが、向日市に会館ができることで交流の場が広がると思っています。学校を卒業しても若い人たちが集まれるようなコンサート企画を向日市の方から考えて企画してできないか。中学、高校を卒業した後も引き続き自由に参加できるようなことができるのではないかと思います。あとは、定期的にコンサートが向日市の会館で開かれることで、市民の皆さんが集まって交流できるというのは素晴らしいことだと思います。演奏者の方から利用したい場合は、向日市民会館を利用することもできるなどすごくいいことです。加えて、向日市の方から企画して演奏者の方を集めた場合、資料館も近くなので何か協働してできれば、それこそ歴史を活かした文化・芸術の資源を掘り起こすことにつながると思います。

安田市長：
　今まで、なぜ市民会館を使えなかったのですか。

中野委員：
　ピアノが壊れていました。一音鳴らないのですが、いいですかと言われました。

安田市長：
　今、あのピアノは玄関に置いてあります。壊れているのですか。

中野委員：
　一音鳴らないはずです。その修理にすごくお金がかかるとのことです。

安田市長：

壊れていたのは知らなかったです。外側も塗り直してきれいにしようとは思っていましたが、その機能ができていないのは知りませんでした。

中野委員：
修理して新しい市役所のロビーに置いてもらえれば、ロビーコンサートなど、大きなコンサートではなくてもできるのではないかと思います。

安田市長：
今のお考えは素晴らしいのですが、市民会館の新しい様相がまだはっきりしていません。寄贈を受けるものなので、希望はいろいろ申し上げているのですが、あまり希望ばかりを言って、寄贈を辞めると言われても困ります。それは言わないと思いますが、寄贈先にも予算があります。

中野委員：
そうですね。

安田市長：
楽器演奏する場合、音の反響も非常に厳しいですね。プロのかたは多少のことは気にされないかもしれませんが。

中野委員：
多少は気にしませんが、反響板があれば何とかなります。いろいろな市民会館に行きますが、反響板がないところがあり、ないということを気にされて、手作りされているところもあります。

安田市長：
反響板は高いのですか。

中野委員：
反響板自体は高いと思います。

安田市長：
市民会館に以前ありましたね。

中野委員：
　あったと思います。反響板の有無で全然違うので、もしなかった場合は演奏しにくいです。音が全部後ろに流れてしまうので、前に飛ばすためにも反響板の設置をお願いしたい。なければ大変ですが手作りできるものです。

安田市長：
　例えば木の椅子がどれぐらい音を吸収・反響するのかという微妙なこともあります。木の椅子なら非常に難しいと聞きます。

中野委員：
　そうですね。響くからと良いといっても、響き過ぎて弾きにくいということもあります。

安田市長：
　人が入るとまた変わるので、難しいです。

中野委員：
　全然違います。また、吹奏楽を演奏しやすいということと弦楽器一人が演奏しやすいということは違うでしょう。もちろん、すべての人に応じたホールと思ってないです。

安田市長：
　せっかくなのでいろいろな方にお使いいただきたいと思っています。

中野委員：
　そうですね、資料館がすごく近いので、何か市民会館でコンサートを開いたら資料館に行く、資料館を見たら市民会館に行くとかできたらいいと思います。

玉城教育部副部長兼文化資料館長
　資料館は今年、市民の方から寄贈された昭和初期の小さいピアノを直しました。先日、中野先生もボランティアで入っていただいた本当に手づくりのコンサートをしていただきました。小規模でしたが大変雰囲気がよく、資料館の吹き抜けラウンジを活用していただきました。それでも１００人ほどは来ていただきました。

中野委員：
　今は新型コロナウイルスで無理ですね。

玉城教育部副部長兼文化資料館長
　新型コロナウイルスが収まらないと無理です。

安田市長：
　わかりました。今まで、文化的行事がありませんでした。今年度は和紙関係の大きな国際シンポジウムを開催しますが、それだけではなく、今おっしゃったような、資料館とコラボレーションしてというようなことができればいいと思っています。

安田市長：
　ほかに大綱については、これでよろしいですか。

白幡委員：
　一つだけいいですか。最後の「施策分野５　歴史あふれるまちづくりの推進」についてですが、つい最近、乙訓の古墳群を見させていただきました。改めてすごいものだということはわかったのですが、見に行くのなら１回見れば終わりなのです。つまり、リピーターとして行くには、それにプラスアルファのものがないと無理だと思うのです。長岡京市で見せていただいところ、公園はあるのですが、トイレもなければ車を停めるところもありません。物集女の車塚もそうだけど、人が動くための車、例えば自転車でもいいですが、それを置く場所すらないという状況の中で、これを活性化してまちづくりに活かすとなると、かなり勇気がいるのではないかと思います。これを整備していくことはとても大事なことで、できたらすごいことになるということはわかりますが、少なくとも私たちが見せていただいた部分に関して言えば、現時点では、それを活性化してまちづくりに活かすというところは、今のままでは無理という感じがしました。もう一つ見せていただいたものについて言えば、小さな道路を隔てるとすぐ普通の住宅です。車を停めることも、行った後に何かをできる場所もないわけです。つまり、少なくともその周辺は公的なものとして押さえておかないと何もつくれない。そういうことがあって、これは保存するのは意義があり、積極的にするべきです。活用すると

いうところ、観光というようなことまで考えるなら、予算を含めて、ただ直しましたで終わりというのはなく、もっと長期的にみてもう少し何か必要ではないかなと感想を持ちました。

安田市長：
　今後に限って言うのでしたら、整備にも期間がかかりましたが、このたびようやくはりこ湖池と竹の径を公有化しましたので、そこから始まるとは思っております。話が変わりますが、旧上田家住宅を買いました。その前には少し駐車場がとれたり、大極殿の前の南側の空き家も駐車場として活用することができないことではないようです。いわゆる史跡なので、そこを１００円パーキングにはできませんが、東の方にもバスの駐車場がありますので、いろいろなパターンで動いていただけます。保存・整備をしながら人に動いていただけるという、いろいろな方法で考えていきたいと思っています。ただ、古墳だけで見ますと、まだ発掘調査ができていませんので、発掘調査して整備するとなると、１０年どころのスパンではありませんので、きちんと方向性と計画性をもって行っていかなければならないと思っています。いずれにいたしましても、歴史的資産がたくさんありますので、その活用の仕方は一つではなく、連携を持った活用の仕方が本市では要るのではないかと思っています。
　とりあえず、教育大綱については、いろいろ参考にしていただければと思います。
　それでは、次に、ほかに何でもいいのでお話をいただければと思います。もちろん、大綱にかかってもいいですが、それに関係なく協議全般につきまして御意見いろいろといただけますか。

松本委員：
　先ほどお話しされたことと関連しますが、いろいろな文化、自然がある中で、向日市ふるさと検定など市民の皆さんに参加され、また中学校ではふるさと学習に取り組まれ、かなり地元を見ていこうというのはありますが、どうしてもまだまだ点在している資源をうまく活かしきれていないというのもあります。竹の径も、いい場所ですが、駅から遠く何もないところをずっと上がっていくという状況です。もっとうまくできないかと思います。教育とは離れる部分がありますが、その辺をどうしたらいいのかというのは、市民の皆さんには意識を持っていただけるような動きであるとか、そういうものが必要だと思います。阪急洛西口西側も今後どのように整備されるかわからないですが、うまく活か

しつつ向日市内に人が流れて、いろいろな歴史や観光などを見ていただけるようにやっていければいいと思います。

安田市長：
　観光客の方によく言われるのは、竹の径を見に来ても食べるところ、休憩するところがない、いい景色を見てここでお茶でも飲んで休憩でもできたらということをよく聞くのですが、実際問題としてあそこに飲食施設は地域上つくりにくい。観光だけで言うと難しいなと思っています。だから、観光に来られる方のニーズに応えられていないのは重々承知しているのですが、それに私たちができること、本来であればそういうニーズがあるのですから民間の方がそのニーズに応えることをしていただいたらいいのですが、そうもいかない。
　だから、ぜひ子ども達に向日市のいろいろなところ回ってもらって、こういうことをしたらもっとみんな楽しいのではないか、ここにはこういうものがあったらいいとか、観光客の人がこんなことおっしゃっていたので、こういうことをすればどうだとかなどを発信してほしい。そうすれば、子ども達も向日市のことよく見られると思います。それは観光だけに限らず、向日市検定は、観光もありますが、向日市のいろいろなことを知ってほしいという検定ですよね。ふるさと教育というのはふるさとの歴史だけじゃなく、ふるさとの地域のすべてのことをするようであれば嬉しいと思っています。国土交通省は、竹の径というのはどこにも代えがたい資産で、京都市にも全国を見てもこういうところはないので、これは活用しないといけないとおっしゃってます。他から来る人が見たら、竹の径というのはかなりのインパクトがあるということを改めて感じました。平日の昼間に竹の径へ行かれたことがありますか。

安田市長：
　今は、外国の方が多くいらっしゃるのです。どうして知ったのかを聞くと、割と外国のコマーシャルなどに載ったりしています。ＳＮＳとかで来られる方が多いのですが、来て満足されるところは、竹の径しかないですね。

松本委員：
　かなりほかから転入する方が多いのですが、そういう方に向日市の魅力を知ってもらえれば、また次の人にも伝わっていくのではないかと思います。

安田市長：
　そう思います。住むに便利な町として暮らしている方が非常に多いですけども、実はその町にもいろいろなことがあるということを、おっしゃったように、市民で知らない方が、特に便利な町として越してこられた方も含めて知ってもらいたいなと思っています。私は子ども達が知って帰ってきたら話してくれるので、それがいいと思っています。もっと言えば、小学生で向日市ふるさと検定で上級まで取る子がいます。向日市ふるさと検定もおっしゃったように、市民の人に向日市のことをもっと知ってほしいということで始めたものですので、もっと何かそういう方法があったらぜひ提案いただきたいと思います。またいい方法があれば、ぜひ教えてください。何でもよろしいです。

中野委員：
　一つだけいいですか。全然関係ないのですが、新型コロナウイルスのことで多くのイベントがなくなってしまいました。卒業式も縮小となり、また選抜高等学校野球大会などもそうなのですが、落ち込んでいる子たちに親として、また大人がどのように声をかけたらいいかということをずっと考えていて、仕方がないよという一言ではすまされない。毎日目標に向かって頑張っていくものが、まったく何もなくなってしまって、これがまた落ち着いたときに、頑張る気持ちというのが子ども達に育っていくか。またなくなるのではないか。それをフォローしていきたい、どうしたらフォローができるか、どう声をかけたらいいかというのを最近考えています。

安田市長：
　甲子園目指していた子ども達はかわいそうですね。本当に一生に一度しかない。

中野委員：
　そうなんです。

安田市長：
　例えば子ども達が学校を休んでいて公園で遊んでいたら、それに対する苦情が入ってきたりします。家にずっと子どもに居ろと言っても、それは難しい。公園に出て遊びたい気持ちはあるのですが、それに対して多くの苦情が入って

くる。だから、学校のグラウンドも開放しなければならない。ただ、十分にといっても、子供というのは休んでいようが割と集団になって行動します。だから、すべてのことが大人の言い訳づくりのために行われるようではいけないと思います。これをしたから発生しても仕方がないではすまないと私は懸念しています。学校を閉めているのが本当にいいことなのかどうかは、エビデンスがあるのかわからないので、微妙なところだと思います。国の方針が出されてからしなければ、これは我々の責任にもなりますから。子供も学校に行けないので嫌だろうし、親も子供が長期間家にいて負担だろうと思うので、そういう心のケアなどを考えていかなければなりません。

永野教育長：
　長くなってきますので、それぞれ学校から家庭に連絡をとったりしてもらっていますが、どこまで気持ちが出せているかはわからない部分もあります。

安田市長：
　すべての子どもが家庭にいたらきちんと生活できるわけでもないので、学校が食についても生活についても責任を担えている面もあると思うので、一方的に休みにしたらいいという問題ではない。思ったほど留守家庭児童会に来ていないのはウイルスに対する危機感だと思うのですが、難しい部分です。私たちが最善と思って選択している方法が、結果として最善なのかは、わかりません。いずれにしても、新型コロナウイルスについては、状況の変化もあるので、逐一報告させていただきます。国の方針には、従わざるを得ないところがあります。また、地域のバランスがあり、例えば京都市がこうしていて長岡京市がこうしていてということもあるので、そういったバランスも考えながら、何よりも優先するのは子ども達の健康です。先ほど中野先生がおっしゃった、体の健康は維持できて心の健康がどうだということはあるので、その辺も十分に考えながらやっていかなければならないと思っております。今は何をおいてもこの状況にしっかりと対応していくことだと思っています。よろしくお願いしたいと思います。
　時間が参りましたので、このあたりで終わらせていただきたいと思います。
　今後におきましても、本日いただいた御意見を参考にさせていただいて、教育委員の先生方に相談しながら、向日市の教育をしっかりしたものにしていくために頑張って取り組んでいきたいと思っております。
　本日は長時間どうもありがとうございました。

これで、令和元年度第１回総合教育会議を終了いたします。